

## <第3分科会> 評価・改善

### 研究課題 学校教育の充実を図る評価・改善の推進

#### 分科会の趣旨

知識基盤社会においては、習得した知識・技能を活用して新たな課題を解決する力や創造性を育む教育が求められており、学校では「新たな知を拓く」教育の創造に努めていく必要がある。そこで校長は、学校経営ビジョンに基づいて、その実現に向けた確かな学校経営、教育実践を進めるとともに、絶えずその評価・改善に取り組み、学校教育のさらなる充実に努めなければならない。

学校教育法に定められた学校評価として、自己評価とともに学校関係者評価が実施され、第三者評価も徐々に進められている。校長は、常に経営や教育活動の改善に努め、評価をより実効性のあるものとし、説明責任を果たさなければならない。また、家庭や地域・関係機関との連携や参画の在り方についての共通理解を図っていくことが重要である。

一方、教職員人事評価においては、校長は教職員の教育活動への取組状況を適切に記録・評価し、それに基づいての指導・助言を重ねることで、教職員各自の意識改革や能力開発を促し、学校の組織全体の成長発展につながるよう進めることが大切である。

本分科会では、学校評価と教職員人事評価を総合的に踏まえた組織マネジメントを通して、学校経営や教育活動の改善を着実に推進していくための具体的方策を明らかにする。

#### 研究の視点

##### (1) 「新たな知を拓く」教育を実現するための学校経営の推進

これからの時代には、知識基盤社会に必要とされる知識・技能の不断の更新や、様々な分野でのイノベーションの創出を実現できる力が重要である。さらに、教育立国にふさわしい知性や感性、世界観や生き方が求められており、これらは「新たな知を拓く」教育があってこそ実現するものである。

今、子どもたちには、「学力」の三要素、すなわち「基礎的・基本的な知識や技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を自らの将来に生かすとともに、それらを社会問題の解決や国家・社会の発展に役立てていく力が強く求められる。

そのため、校長は、「生きる力」の育成を一層重視し、子どもたちがしなやかな知性と豊かな創造性を身に付け、互いの個性や絆を大切にする教育の実現を目指す学校経営に取り組むことが重要である。

このような視点に立ち、「新たな知を拓く」教育を実現する学校経営を推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

##### (2) 学校づくり・人づくりを推進するための学校評価・教職員人事評価の工夫

学校評価は、将来を見据えた明確な学校経営ビジョンに基づいて、展望をもった目標を設定し、実践を吟味し経営改善に活かすよう行わなければならない。そのため、校長は、「生きる力」の育成を根幹に据えた教育課程の編成・実施・評価・改善を進めるとともに、自己評価及び保護者等の学校関係者による評価の実施とその結果を踏まえた開かれた学校づくりに取り組み、保護者や地域の信頼を得ることが重要である。

教職員人事評価は、教職員一人一人の専門性や指導力を高め、教職員が自信と誇りをもてるように活用しなければならない。また、教職員の自己目標や評価結果が学校経営ビジョンの共通理解やビジョンの実現に向けた組織力の向上につながり、学校の教育力を高めることができるよう実施することが求められる。

このような視点に立ち、学校評価や教職員人事評価を学校経営に効果的に活用し、これからの時代の学校づくり・人づくりを推進する上での、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。